

広島市立大学未来ビジョン

2021年6月

公立大学法人広島市立大学

目 次

はじめに	1
1. 「未来ビジョン」策定の背景	2
2. 未来ビジョンの概要	3
2.1 建学の基本理念, 大学のあり方, 使命, 目標	3
2.2 未来ビジョンの設定分野	3
2.3 長期目標	4
3. 未来ビジョン	7
ビジョン1 教育	7
ビジョン2 研究	8
ビジョン3 地域・社会貢献	8
ビジョン4 グローバル	9
ビジョン5 平和	10
ビジョン6 大学運営	10

はじめに

広島市立大学は「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念として1994年に開学した。以来、今日まで国際平和文化都市を標榜する広島市の「知」の拠点、「市民と共生し、市民の誇りとなる大学」となることを目指して、教育、研究、そして地域・社会貢献に力を注いできた。

広島市立大学は2010年に公立大学法人化した。現在は第2期中期計画期間中であり、2022年からは第3期中期計画が開始される予定となっている。グローバル化やSociety5.0時代の到来、さらにはコロナ禍を契機とした社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）の急激な進展など、大学を取り巻く社会状況は近年、大きく変化している。本学の設置者である広島市においても、少子化・高齢化の進展など様々な課題に直面している。そうした中、本学が地域に貢献する公立大学として広島地域におけるプレゼンスを高め、地域の教育・研究の拠点としてこれからも健全かつ持続的に発展していくためには、長期的視点に立った大学の将来構想あるいは未来へのビジョンを大学構成員が理解・共有し、共有されたビジョンの実現を目標として第3期中期計画を適切に策定し、実施することが重要である。

そこで、広島市立大学のこれからの進むべき方向性を長期的視点から示すものとして、目標年を建学50周年の2044年とする未来ビジョンを策定することとした。未来ビジョンは、2044年において「本学はこういう大学になりたい」と考える大学の将来像を未来ビジョンの6つの設定分野（教育、研究、地域・社会貢献、グローバル、平和、大学運営）ごとに提示するものである。さらに、未来ビジョンを実現するために今後10年間に本学が実現に取り組む具体的な項目を、未来ビジョンの設定分野ごとに長期目標として設定した。

未来ビジョン実現のためには、教職員、学生、同窓生など本学に関係する多くの皆様のご理解とご協力、さらには広島市民、広島市、産業界・経済界を含む広い意味での本学関係者・関係団体等からの幅広いご支援、ご協力が不可欠である。関係各位におかれましては本ビジョンで提示した本学の未来への挑戦にご理解とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

広島市立大学理事長・学長
若林 真一

1. 「未来ビジョン」策定の背景

広島市立大学の開学から27年を経て、社会状況は建学時から大きく変化してきている。情報通信技術（ICT）は長足の進歩を遂げた。コンピュータの進歩とインターネットの普及、スマートフォンの出現によりビジネスのIT化が急速に進み、世界市場を席捲する巨大IT企業も生まれた。グローバル化の進展も著しい。インターネットと国際航空路等の交通手段の発達により、人、物、情報のグローバルな移動・流通が加速度的に増加し、様々な分野において従来は存在していた境界が縮小あるいは消滅し、各国の相互依存が強まっている。

一方、IT化とグローバル化の負の側面も近年は顕在化している。IT化、グローバル化の爆発的進展は各国の産業構造に大きな変化をもたらし、変化に追随できない一部の産業は衰退を余儀なくされた。また、IT化、グローバル化の流れに取り残された労働者の雇用の多くも失われ、多くの国では富がグローバル企業や一部の富裕層に集中し、貧富の差が拡大している。さらにグローバル化の加速は文化の衝突、民族紛争や宗教対立を激化させる要因ともなっている。

こうした状況を打開しようとする動きも近年、顕著になっている。国連は2015年に開催した国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、国際社会全体の開発目標として「持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals, SDGs）」を提唱した。SDGsは国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標と169のターゲットから構成され、目標として、貧困の撲滅、ジェンダー平等、公平で質の高い教育の提供、気候変動対策などが挙げられている。

広島市立大学が開学した1994年以降の日本社会に目を向けると、1992年にバブル経済が崩壊した後、我が国は「失われた20年」とも称される経済の低迷期に入った。また、我が国の人口は2009年をピークに減少に転じ、長寿命化の進展も要因となって我が国は前例のない少子高齢化社会になりつつある。少子高齢化に伴う労働人口の減少、東京への人口の一極集中と地方の衰退も大きな社会的課題となっている。

本学の設置自治体である広島市も様々な課題に直面している。特に、少子高齢化の進展が大きな課題となっている。広島市の人口は2020年の120.8万人をピークに、2030年には119.4万人、2040年には115.1万人と年々減少していくものと予測されている。少子化・高齢化、人口減少が進むと、経済活動の停滞や市民生活への悪影響を招くことが予想されるため、少子化・高齢化、人口減少に歯止めを掛けることで経済を活性化し、自律的な発展を図ることが求められている。

こうした状況の中、2019年12月に初めて患者の発生が確認された新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に広がり、パンデミックの様相を呈しており、収束の兆しは未だに見えない。世界経済にも深刻な影響をもたらしている。

以上に述べてきたように、世界および我が国の社会状況の変化には激しいものがあり、そうした変化が直接、あるいは間接的に世界および我が国の高等教育のあり方にも大きな影響を与えている。このような状況の中においても、広島市立大学は常に高い目標を掲げ、地域と世界の明日を拓くために、新たな価値の創造への挑戦を続けることが求められている。

2. 未来ビジョンの概要

2.1 建学の基本理念，大学のあり方，使命，目標

1994年，広島市が設置者となり，「建学の基本理念」のもとに広島市立大学が設立された。建学の基本理念は本学のあり方を，建学時だけでなく将来も含めて規定している。

○ 建学の基本理念

科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学

本学が設置されてから12年後の2006年，少子化・高齢化やグローバル化の進展，社会の多様化，知識基盤社会の到来，さらには全国的に大学改革の流れが一挙に加速するなど，広島市立大学を取り巻く環境は大きく変化した。学長の諮問機関である外部有識者で構成された広島市立大学運営協議会，及び，運営協議会のもとに設置された広島市立大学将来計画検討専門委員会は，学長からの要請を受けて，教育・研究・地域貢献・大学運営に関する資料や関係者からのヒアリングに基づいて広島市立大学の現況評価を行い，課題を整理した上で，広島市立大学のあり方に関する提言をとりまとめ，「広島市立大学あり方検討報告書」（以下，「あり方検討報告書」）として公表した。本報告書においては，21世紀における広島市立大学のあり方，使命，目標が以下のように提言されている。

○ 本学のあり方（「あり方検討報告書」）

国際平和文化都市の「知」の拠点 ―地域と共生し，市民の誇りとなる大学―

○ 本学の使命（「あり方検討報告書」）

国際平和文化都市を都市像とする広島市に設置された大学として，地域社会の要請に的確に応え，都市像にふさわしい国際性，創造性と高い倫理観を持つ人材を育成する

○ 本学の目標（「あり方検討報告書」）

- 広島市の発展や地域社会の活性化に貢献できる大学
- 広島市の国際的なブランドを高め，国際的にも評価される大学
- 市民に信頼され，市民の誇りとなる大学

未来ビジョンは，建学の基本理念に立ち返ると共に，広島市立大学のあり方，使命，目標に示されている精神に則って策定したものである。

2.2 未来ビジョンの設定分野

一般に大学の使命（あるいは役割，機能）と業務は，教育，研究，社会貢献，大学運営の4分野に分類される。高等教育研究機関として教育と研究はもっとも重要な大学の使命・機能である。さらに，近年，大学の社会貢献が重要視されるようになってきており，社会貢献は大学の主要機能の1つに数えられることが一般的になった。特に公立大学においては，設置自治体を中心とする地域社会に貢献することが求められており，地域貢献，あるいは地域・社会貢献と呼ばれるこ

とも多い。

そこで、未来ビジョンの設定分野として、まず、公立大学の主要機能である教育、研究、地域・社会貢献の3分野を設定した。さらに、「建学の基本理念」において、本学は「地域と世界平和に貢献する国際的な大学」と規定されていることから、本学の特色を表し、本学が重点的に取り組む分野として「グローバル」と「平和」を設定分野とし、これら5分野の未来ビジョンを円滑に実現するための運営基盤として大学運営を未来ビジョンの設定分野に加えた。

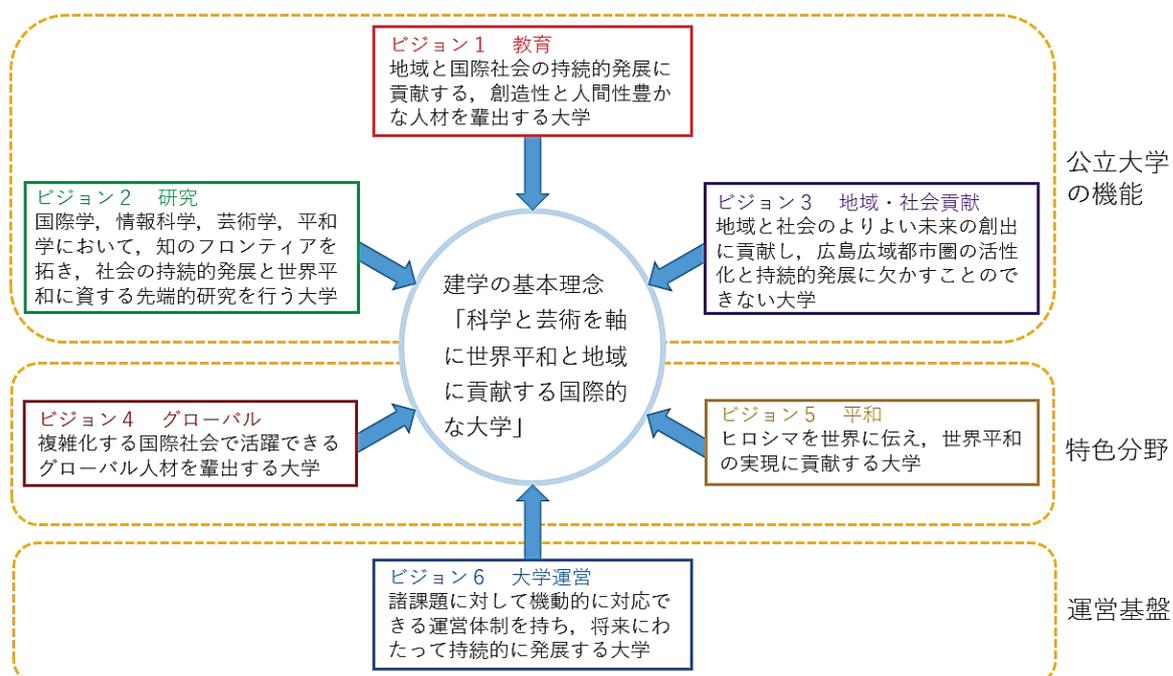
よって、以下の6分野に対して未来ビジョンを設定することとし、本学の建学50周年にあたる2044年を目標年とした。

- 教育
- 研究
- 地域・社会貢献
- グローバル
- 平和
- 大学運営

2.3 長期目標

未来ビジョンは目標年である2044年において「本学はこういう大学になっていたい」と考える大学の将来像を未来ビジョンの設定分野ごとに提示するものである。さらに、未来ビジョンを実現するために、目標年を2030年としてこれからの10年間に本学が達成に取り組む具体的な事項を未来ビジョンの設定分野ごとに「長期目標2030」として設定した。

未来ビジョンの構想イメージ、および未来ビジョンと長期目標2030の一覧を以下に示す。



未来ビジョンの構想イメージ

未来ビジョンと長期目標 2030 一覧

分野	未来ビジョン	長期目標 2030
分野 1： 教育	地域と国際社会の持続的発展に貢献する，創造性と人間性豊かな人材を輩出する大学	<p>(1) 平和を志向し，文理融合的教養を持つ国際人を育てる。</p> <p>(2) 専門分野の知識と技能を生かして地域と社会に貢献する職業人を育てる。</p> <p>(3) 課題発見力と問題解決力を持ち，未知の領域に果敢に挑戦する人材を育てる。</p> <p>(4) 地域志向教育を充実し，地域において活躍する人材を育てる。</p> <p>(5) 教学マネジメント体制を確立し，学修成果（アウトカム）を重視した学修者本位の教育を行う。</p> <p>(6) デジタル技術，情報通信技術，ラーニングアナリティクスを利活用した先進的教育を推進する。</p> <p>(7) 多様な社会人を受け入れるリカレント教育を拡充する。</p> <p>(8) アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を国内外から幅広く集める。</p> <p>(9) 高大接続を強化し，広島地域の高校生の有力な進学先として定着する。</p> <p>(10) 入学前から卒業後まで，学生の修学，学生生活，キャリア形成を総合的に支援する体制を強化する。</p>
分野 2： 研究	国際学，情報科学，芸術学，平和学において，知のフロンティアを拓き，社会の持続的発展と世界平和に資する先端的研究を行う大学	<p>(1) 人類の諸課題の解決と持続可能な発展に資する研究を行う。</p> <p>(2) 広島地域の知の拠点として，地域の課題を解決し，地域の発展に資することで広島市の拠点性を高める研究を行う。</p> <p>(3) 国際学，情報科学，芸術学，平和学が連携する学際的研究を推進する。</p> <p>(4) 最先端の研究を通して，21 世紀の社会を担う研究者と高度専門職業人を育成する。</p>
分野 3： 地域・社会貢献	地域と社会のよりよい未来の創出に貢献し，広島広域都市圏の活性化と持続的発展に欠かすことのできない大学	<p>(1) 地域と社会に開かれた大学として，大学の知を地域と社会に還元する。</p> <p>(2) 地域の自治体や教育機関と連携し，社会人の学び直しや市民の生涯学習に対する教育機能を拡充する。</p> <p>(3) 地域のイノベーション拠点として広島広域都市圏の自治体・企業との連携を強化することで，地域の活性化と持続的発展に貢献する。</p> <p>(4) 大学の研究成果，知的財産，人的資源を活用することで，安心・安全で持続可能な社会の構築に貢献する。</p>

分野4： グローバル	複雑化する国際 社会で活躍でき るグローバル人 材を輩出する大 学	<p>(1) 世界の多様性を理解し、世界的視野を持って行動できる人材を育成する。</p> <p>(2) 地球環境や貧困等の人類の諸課題に取り組む人材を育成する。</p> <p>(3) グローバルとローカルの複眼的思考に基づいて世界と地域を結ぶ人材を育成する。</p> <p>(4) 海外学術交流協定大学との連携を強化し、多彩な交流・留学プログラムを整備することで学生の留学を推進する。</p> <p>(5) 留学生に対する支援を充実し、多様な国・地域からの優秀な留学生を増やすことで、キャンパスの国際化を推進する。</p>
分野5： 平和	ヒロシマを世界 に伝え、世界平 和の実現に貢献 する大学	<p>(1) ヒロシマを未来に継承し、ヒロシマと世界をつなぐ人材を育成する。</p> <p>(2) 人類の持続的平和に貢献する、ヒロシマに根差した研究を行う。</p> <p>(3) 広島平和研究所と大学院平和学研究科の広島大学旧理学部1号館への移転を推進し、平和研究に関する世界有数の拠点を形成する。</p> <p>(4) 広島地域および国内外の大学と連携することで、ヒロシマと平和に関する教育の充実、共同研究の推進、ヒロシマからの情報発信の強化を実現する。</p>
分野6： 大学運営	諸課題に対して 機動的に対応で きる運営体制を 持ち、将来にわ たって持続的に 発展する大学	<p>(1) 理事長・学長のリーダーシップの下、トップダウンとボトムアップのバランスを図りながら、迅速な意思決定と機動的な大学運営を行う。</p> <p>(2) 教員と職員、あるいは職員同士が所属部署を超えて密接に連携・協働して大学運営に携わる体制を構築する。</p> <p>(3) IR (Institutional Research) の活用などにより、データとエビデンスに基づく戦略的経営を実現する。</p> <p>(4) 内部質保証体制を確立することで、教育、研究、組織、運営、施設及び設備等の状況について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努める。</p> <p>(5) 大学業務・サービスのデジタル化、効率化を推進する。</p> <p>(6) 戦略的な外部資金獲得や広島市立大学基金の拡充などにより、大学の財務基盤を強化する。</p> <p>(7) ダイバーシティ、コンプライアンス、危機管理を重視した大学運営を行う。</p> <p>(8) 広島市立大学ブランドを高めるための戦略的広報を展開する。</p>

3. 未来ビジョン

ビジョン1 教育

AI（人工知能）が進展しつつある現代において、知識と技能を教授するだけのスキルベースの大学教育は意義をなくしつつある。これからの大学教育においては、教員が学生に「何を教えるか」という教員側からの視点で講義を行うのではなく、学生がその講義を受講することによって「何を身に付けることができるか」という学修者側の視点（アウトカム）に沿った学修者本位の教育を実施することが求められる。

文系、理系の枠にとらわれない新しい教養の必要性も高まっている。社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）、グローバル化の進展とAIの普及により、ますます多様化、複雑化する現代社会の様々な課題を発見・把握し、多角的、多面的視点から課題解決を適切に図るために、文理融合の複眼的思考力を持つ人材を育成するSTEAM（Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics）教育が提唱されている。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、国内外の大学においては、オンライン教育の導入が急速に進んだ。ラーニングマネジメントシステムを活用したラーニングアナリティクスの導入など、オンライン教育を含む大学教育のDXにより、教育の質の飛躍的な向上が期待されている。講義のオンライン化により、教室でのリアルタイムでの対面式講義という制約がなくなるため、場所と時間を越えた大学教育も実現可能となる。大学教育のDXは今後、益々進展し、この潮流に取り残された大学は淘汰されることが予想される。大学間競争において淘汰されないためにも、大学はDXを基盤とする高等教育を推進、強化することが求められる。

こうした社会と大学教育を取り巻く状況を踏まえ、建学の基本理念「地域と世界平和に貢献する国際的な大学」を教育において実現するため、21世紀の健全な市民社会の発展に貢献する、創造性と人間性豊かな人材を育成することを目標とする。また、広島市が設置した公立大学として、地域に貢献する人材を育成し、地域に人材を供給することを目標とする。労働環境の変化や技術の急速な進歩に伴い、リカレント教育への需要も高まると予想されており、社会人学生の教育の充実が求められる。さらに、広島広域都市圏の高等学校に在籍する高校生の有力な進学先として定着することで、広島広域都市圏の若年人口の大学進学時における圏域外への流出を減らすことにも貢献する。

【未来ビジョン（教育分野）】

地域と国際社会の持続的発展に貢献する、創造性と人間性豊かな人材を輩出する大学。

【長期目標 2030（教育分野）】

- (1) 平和を志向し、文理融合的教養を持つ国際人を育てる。
- (2) 専門分野の知識と技能を生かして地域と社会に貢献する職業人を育てる。
- (3) 課題発見力と問題解決力を持ち、未知の領域に果敢に挑戦する人材を育てる。
- (4) 地域志向教育を充実し、地域において活躍する人材を育てる。
- (5) 教学マネジメント体制を確立し、学修成果（アウトカム）を重視した学修者本位の教育を行う。
- (6) デジタル技術、情報通信技術、ラーニングアナリティクスを利活用した先進的教育を推進する。

- (7) 多様な社会人を受け入れるリカレント教育を拡充する。
- (8) アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を国内外から幅広く集める。
- (9) 高大接続を強化し、広島地域の高校生の有力な進学先として定着する。
- (10) 入学前から卒業後まで、学生の修学、学生生活、キャリア形成を総合的に支援する体制を強化する。

ビジョン2 研究

国際平和文化都市である広島市が設置した公立大学として、本学は平和と文化の創造、および地域の発展に貢献することが求められる。本学はこれまで国際学、情報科学、芸術学、平和学の4つを主な研究分野として研究を推進し、平和と文化の創造に貢献してきたが、地域と社会の持続的発展のために、今後も着実に研究を推進することが必要である。また、特色ある学部構成を活かした学際的研究を推進することも望まれる。

公立大学として、地域課題の解決と地域の発展に貢献し、広島市の拠点性の強化に資する研究を行うことが重要である。さらに、大学においては教育と研究は不可分であることから、研究を通じて研究者や大学教員、あるいは高度な技術を持つ技術者などの高度専門職業人の育成を行うことも求められる。

〔未来ビジョン（研究分野）〕

国際学、情報科学、芸術学、平和学において、知のフロンティアを拓き、社会の持続的発展と世界平和に資する先端的研究を行う大学。

〔長期目標 2030（研究分野）〕

- (1) 人類の諸課題の解決と持続可能な発展に資する研究を行う。
- (2) 広島地域の知の拠点として、地域の課題を解決し、地域の発展に資することで広島市の拠点性を高める研究を行う。
- (3) 国際学、情報科学、芸術学、平和学が連携する学際的研究を推進する。
- (4) 最先端の研究を通して、21世紀の社会を担う研究者と高度専門職業人を育成する。

ビジョン3 地域・社会貢献

広島市が設置した公立大学として、地域と社会の発展に貢献し、よりよい未来の創出に貢献することは本学の最も重要な使命である。地域と社会に開かれた大学として大学の知を還元すると共に、地域貢献人材を育成し、社会の変革を社会と連携して推進することが求められる。また、リカレント教育等の社会人の学び直しや市民の生涯学習も積極的に行う。特にリカレント教育については、人生100年時代を迎えて人生の要所所で大学・大学院に入り直す社会人が今後、著しく増大すると予想されることから、こうした学びの需要に積極的に対応し、社会人学生の受け入れを大幅に増やす。

広島市は「活力の創出と都市の個性の確立を目指したまちづくり」を目指しており、圏域経済の活性化に資する産業の集積・強化、広島市の経済の屋台骨である中小企業の活性化など、産業の振興に取り組むこととしている（『広島市基本計画』）。広島市の産業振興に学術面から貢献するとともに、広島広域都市圏のイノベーション拠点として自治体・企業と連携し、大学の持つ

知的・人的リソースを活用して圏域の活性化と持続的発展に貢献する。

人口減少が進み、特に地域の若年人口が減ると予想される中、大学間連携も求められるようになってくると予測されている。中央教育審議会は「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において、複数の大学等と地方公共団体、産業界等とが恒常的に対話し、連携を行うための体制として「地域連携プラットフォーム（仮称）」の構築を提言している。こうした連携にあたっては本学の強みがさらに強化されるような連携とすることが望まれる。

こうした地域・社会貢献、大学と地域との連携の強化によって、広島市を中心とする広島広域都市圏を活性化し、圏域の魅力を増すことで、2045年以降も圏域内人口200万人超の維持を目指す「200万人広島都市圏構想」の達成に貢献する。

[未来ビジョン（地域・社会貢献分野）]

地域と社会のよりよい未来の創出に貢献し、広島広域都市圏の活性化と持続的発展に欠かすことのできない大学。

[長期目標 2030（地域・社会貢献分野）]

- (1) 地域と社会に開かれた大学として、大学の知を地域と社会に還元する。
- (2) 地域の自治体や教育機関と連携し、社会人の学び直しや市民の生涯学習に対する教育機能を拡充する。
- (3) 地域のイノベーション拠点として広島広域都市圏の自治体・企業との連携を強化することで、地域の活性化と持続的発展に貢献する。
- (4) 大学の研究成果、知的財産、人的資源を活用することで、安心・安全で持続可能な社会の構築に貢献する。

ビジョン4 グローバル

本学は建学の基本理念において「国際的な大学」を標榜しており、グローバル人材の育成は本学の使命の一つである。21世紀のグローバル社会においては、単に語学に堪能であることだけではグローバル人材とは言えず、グローバル化のメリットとデメリット、あるいは世界の多様性や異文化を正しく理解した上で、複雑化する国際社会において高いコミュニケーション能力を持って、SDGsで提起されている貧困や地球環境等の課題に取り組む人材が求められる。さらに、公立大学として、地域と世界を結ぶ人材を育成することが求められる。

また、国際平和文化都市である広島市は「国際的に開かれた活力あるまち」を目指しており、海外諸都市との交流の推進や市民レベルでの交流の促進、外国人訪問者が滞在しやすく、また、外国人市民の暮らしやすさにも配慮したまちづくりに取り組むなど、国際交流・国際協力や多文化共生の推進を図ることとしている（『広島市基本計画』）。本学はこうした広島市のまちづくりに貢献できる人材を育成することも求められる。

[未来ビジョン（グローバル分野）]

複雑化する国際社会で活躍できるグローバル人材を輩出する大学。

[長期目標 2030（グローバル分野）]

- (1) 世界の多様性を理解し、世界的視野を持って行動できる人材を育成する。
- (2) 地球環境や貧困等の人類の諸課題に取り組む人材を育成する。
- (3) グローバルとローカルの複眼的思考に基づいて世界と地域を結ぶ人材を育成する。

- (4) 海外学術交流協定大学との連携を強化し、多彩な交流・留学プログラムを整備することで学生の留学を推進する。
- (5) 留学生に対する支援を充実し、多様な国・地域からの優秀な留学生を増やすことで、キャンパスの国際化を推進する。

ビジョン5 平和

世界最初の被爆都市である広島市が設置した公立大学として、平和への貢献は本学の重要な使命である。広島市は「平和への願い」を世界中に広げるまちづくりを目指している（『広島市基本計画』）。被爆から76年が経過し、生存している被爆者も少なくなっている現在、ヒロシマを未来に継承すると共に、世界平和に貢献できる人材を育成することが求められる。

具体的には、教育においては平和創造と平和維持に貢献する人材の育成に取り組むと共に、平和に関する学びの場を世代を超えて幅広く提供することが求められる。研究においては被爆地広島にある大学として、核兵器廃絶と世界恒久平和を実現するための平和研究に取り組むことが求められる。さらに、広島平和研究所と大学院平和学研究科の広島大学旧理学部1号館への移転を契機として、広島地域の大学等と連携し、平和研究に関する発信力・影響力の高い世界有数の研究拠点を形成することが強く期待されている。

〔未来ビジョン（平和分野）〕

ヒロシマを世界に伝え、世界平和の実現に貢献する大学。

〔長期目標 2030（平和分野）〕

- (1) ヒロシマを未来に継承し、ヒロシマと世界をつなぐ人材を育成する。
- (2) 人類の持続的平和に貢献する、ヒロシマに根差した研究を行う。
- (3) 広島平和研究所と大学院平和学研究科の広島大学旧理学部1号館への移転を推進し、平和研究に関する世界有数の拠点を形成する。
- (4) 広島地域および国内外の大学と連携することで、ヒロシマと平和に関する教育の充実、共同研究の推進、ヒロシマからの情報発信の強化を実現する。

ビジョン6 大学運営

本学が今後、建学50周年を目指し、地域に貢献する公立大学として広島地域におけるプレゼンスを高め、これからも健全に発展していくためには、諸課題に対して機動的に対応可能な運営体制を確立する必要がある。また、大学を自律的、効率的に発展させていくためには、内部質保証を充実させる必要がある。そのために、大学教育のデジタル化と共に、大学業務・サービスおよび大学経営のデジタル化、効率化を推進する。教職協働を推進すると共に、大学経営環境の変化に合わせて、委員会組織や附属施設等の見直し、再編等も機動的に行う。

大学の自律的運営の自由度を増すためには財務基盤の強化も重要である。科学研究費補助金等の外部資金を積極的に獲得すると共に、広島市立大学基金の拡充にも取り組む。

女性教員比率の向上などのダイバーシティの推進、ハラスメント防止や研究不正防止などのコンプライアンスの遵守、災害対応等の危機管理の強化も推進する。大学のブランドや知名度の向上のため、広報にも積極的に取り組む。

[未来ビジョン（大学運営分野）]

諸課題に対して機動的に対応できる運営体制を持ち、将来にわたって持続的に発展する大学。

[長期目標 2030（大学運営分野）]

- (1) 理事長・学長のリーダーシップの下、トップダウンとボトムアップのバランスを図りながら、迅速な意思決定と機動的な大学運営を行う。
- (2) 教員と職員、あるいは職員同士が所属部署を超えて密接に連携・協働して大学運営に携わる体制を構築する。
- (3) IR（Institutional Research）の活用などにより、データとエビデンスに基づく戦略的大学の経営を実現する。
- (4) 内部質保証体制を確立することで、教育、研究、組織、運営、施設及び設備等の状況について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努める。
- (5) 大学業務のデジタル化を推進することで、業務の効率化とサービスの向上を実現する。
- (6) 戦略的な外部資金獲得や広島市立大学基金の拡充などにより、大学の財務基盤を強化する。
- (7) ダイバーシティ、コンプライアンス、危機管理を重視した大学運営を行う。
- (8) 広島市立大学ブランドを高めるための戦略的広報を展開する。